

2024.3.31 (日)

老朽原発ただちに廃炉！

美浜全国集会

～地震も事故も まったなし～

●プログラム

12:30 開会

- 司会あいさつ 山本 貴美子 (福井県・敦賀市議会議員)
- 主催者あいさつ 中畷 哲演 (原子力発電に反対する福井県民会議)
- 特別報告「老朽原発運転差止仮処分について」 井戸 謙一 弁護士

■ 仮処分申立人の方々

- ◇ 美浜仮処分申立人 / 福井地裁 林 広員
- ◇ 美浜仮処分申立人 / 大阪高裁 山本 雅彦
- ◇ 高浜仮処分申立人 / 福井地裁 中畷 哲演

★ プラカード・アクション

■ 全国各地から

- ◇ (北陸)「能登での反原発のたたかい」北野 進 (志賀原発を廃炉に！訴訟 原告団長)
- ◇ (名古屋) 老朽原発 40 年廃炉訴訟市民の会 草地妙子・共同代表
- ◇ 上記以外、全国からのメッセージ紹介

★ 集会宣言 採択

★ デモの説明

★ シュプレヒコール

14:15 閉会

14:30 町内デモ出発 ⇨ 関西電力原子力事業本部前で関西電力への
申入と抗議行動 ⇨ デモ終了 (美浜町役場前、16:00予定)

- ◆デモ順 第1グループ…福井、滋賀、全国
- 第2グループ…大阪、兵庫、奈良、和歌山
- 第3グループ…京都

老朽原発うごかすな！実行委員会

連絡先：木原壯林 (電話 090-1965-7102)

2024年3月31日

●全国で脱原発を闘う仲間からの連帯メッセージ

3・31「老朽原発ただちに廃炉！美浜全国集会」への メッセージ

北海道・後志（しりべし）・原発とエネルギーを考える会 共同代表 藤井 俊宏

本年1月1日に発生した能登半島大地震は、私どもに大変な恐怖を感じさせました。小樽からフェリーで新潟に降り、柏崎刈羽原発を観、能登半島の付け根、志賀原発を観、輪島に入りました。思い出ある輪島の朝市の状況。悲しくつらいものでした。そして志賀原発、柏崎刈羽原発はどうなっているのか。ニュースが流れないのです。ネットで様子がわかりました。

私たちが反対運動している泊原発は志賀原発同様半島の付け根にあります。積丹（しゃこたん）半島です。そして泊原発立地の両隣、寿都（すつつ）町、神恵内（かもえない）村には高レベル放射性廃棄物の最終処分場の調査対象自治体となっています。先日最終処分場の候補地寿都町に隣接する蘭越（らんこし）町（泊原発30キロ圏内）で福島原発事故のアニメーション上映会を催しました。春には珍しい吹雪となりましたが、50名以上の参加者が有り関心の高さを感じまし

た。全国のほとんどの原発立地地区は辺境地区にあり、地震、津波、原発事故、この三つが重なる複合災害が起きたら大変なことになる。1月1日に起きた能登半島大地震は北海道、とくに泊原発立地地区および30キロ圏内の市町村には大きな課題を突き付けられました。北海道の1月は雪との戦いです。特に30キロ圏内のニセコ地区においては冬のスキーシーズンに海外からのスキー客が大勢訪れています。この時期に複合災害が起きた場合、スキー場地区からの避難は絶望的な状況となります。いまだに具体的な避難計画はできていません。この地震大国日本では原発の稼働というのは日本沈没を意味しているのです。早急にストップです。福島原発事故のようなことを繰り返してはならないのです。そのためにも「美浜全国集会」が大きくなねりとなることを期待いたします。

9月女川原発再稼働を止めよう！

みやぎ脱原発・風の会 舘脇 章宏

2月19日、東北電力は女川原発2号機の再稼働時期を今年9月ごろと発表し、これ以上遅れることはないと強調した。さらに女川原発2号機の使用済燃料乾式貯蔵施設の設置の意向を示した。「使用済燃料プールが再稼働から4年程度で貯蔵容量の上限に達することから、発電所敷地内で一時的に貯蔵する」（東北電力）としている。六ヶ所村での再処理開始にめどが立たないための措置だが、安全性を考えれば2号機ではなく廃炉措置が行われている1号機の使用済燃料をこそまずは移すべきではないか。安全面より再稼働を優先し、新たに核のゴミを生み出すための燃料移動を認めることはできない。

さらに核燃料税の導入検討や避難のための道路建設

も進められているなど、9月再稼働のアナウンスとともにそれに向けた動きが加速されようとしているなかで、私たちは福島原発事故の原点に戻り、二度と放射能におびえることのない社会をつくるため、あくまで再稼働を止める闘いを作り出して行かなければならない。能登半島地震は、私たちに3.11東日本大震災を改めて思い起こさせた。避難計画の実効性を問う裁判も控訴審で審議されているが、女川のある三陸海岸は地震の巣なのだ。地震の国に原発はいらない。3.23「STOP！女川原発再稼働さようなら原発全国集会 in 宮城」を皮切りに、3.11以降BWRでかつ東日本で初となる女川原発の再稼働を何としても止めよう。

「汚染水流すな！海はすべての生命の源」

…と、今日も叫んでいます。

原発いらね！ふくしま女と仲間たち 黒田 節子

汚染水を流すことに福島県内自治体の7割以上、県漁連や各界からも反対意見。しかし、今日現在すでに4

回目の海洋投棄中です。許せません！これには、技術的なウソがあることを全国の皆さんと共有したいで

す。

- *タンクが満水になる。(→大ウソです)
- *廃炉作業に敷地が必要。(→白々しいウソです。880トンのデブリを仮に1日1キロ取り出したとして、2,500年必要。廃炉はドリームです)
- *汚染水は今後も発生する。(→発生はゴク少なくなってきました)
- *トリチウムよりさらに怖い半減期 1,570 万年のヨウ素 129、猛毒炭素 14 など、デブリに直接触れた「汚染水」の放出は世界初。
- *タンクは汚染の薄いもの問題ないものから流し、濃いものは後で流すそうですヨ。
さらには、「基金による海洋放出 PR 事業」等に巨額のパラマキ、新住民への過剰な保護政策（富岡町は

新規就農者へ 400 万円超の補助等)。学校では「ALPS 処理水の理解醸成」に向けた取り組みが画策されていることも、近頃の動きとして加えなければいけません。

昨秋、「請戸川河口テントひろば」を開設しました。私たちの断固たる意思表示と地元の方々との交流、汚染状況を自ら測っていくという大きな使命があります。すべての原発を廃炉にするまで‘倦まず弛まず’共に頑張りましょう。

巨大地震は待たなし！
フクシマを忘れないで！
老朽原発、ただちに廃炉！

美浜集会メッセージ 茨城県も東海村もだめだこりゃ状態

東海村議 阿部 功志

私の地元、茨城県も東海村も、住民の心配をよそに東海第二原発再稼働への条件を早くクリアしたいように見えています。

茨城県は、日本原電に出させた東海第二原発の事故時の放射性物質拡散シミュレーションについて、昨年 11 月、試算結果を公表しました。しかし新潟県や規制庁が以前に出したシミュレーション結果と比べても非現実的な内容です。風は一方向で、放射性物質は 30 キロより外に出ないから 30 キロ圏 92 万人中 17 万人の避難で済むと。都合のよい事故で都合よく避難できるという茶番ですが、大井川知事は、避難計画の実効性は担保されたとして、県民をミスリードしています。東海村では、昨年暮れに山田村長が、避難計画が策

定できたと公表しました。避難施設の確保以外には触れず、複合災害も考えず、避難車両不足など多くの課題は国や県任せです。

だめだこりゃ、とため息が。

能登半島地震への政府の消極的な対応を一つの例に、政権がそもそも国民の生活に無関心で、むしろ人権を奪う方向に国の形を変えようとしています。

裏金問題がきっちり解決できなくても、その政権の横暴に無関心な人、あきらめた人が多いことがこの国の病理でしょう。ここにどうアプローチするかが私たちの最大の課題ではないでしょうか。

集会の成功を祈念いたします。頑張りましょうね。

「とめよう！東海第二原発首都圏連絡会(首都圏連絡会)」の活動

首都圏連絡会 志田 文広

「首都圏連絡会」の活動報告をもって、3.31 美浜全国集会への連帯のメッセージとします。

「首都圏連絡会」は原子力規制委員会が日本原電(株)の運転期間延長認可申請を認可した 2018 年 11 月に発足し、毎月行っている日本原電本店前抗議行動、毎年 11 月に行う大集会、3 回にわたる署名活動、一斉行動といった東海第二原発の再稼働を阻止すべく活動をしてきました。

- ・毎月行っている日本原電本店前抗議行動は今月の行動で第 68 回を数えました。
- ・毎年 11 月に行う大集会は昨年 11 月の集会で第 4 回目となり、その第 4 回は首都圏全体から 700 名以上

もの参加者が東京に集まり、共に連帯して闘うことの決議を採択しました。

- ・署名活動は、第 1 弾が約 64,000 名、第 2 弾は約 12,000 名の署名を集めそれぞれ日本原電本店に直接手渡し、現在第 3 弾を行っています。
- ・一斉行動とは首都圏連絡会が率先して茨城と千葉の多数の脱原発団体と結束して立ち上げた、‘東海第二原発いらない！首都圏ネットワーク’が主催して行っている活動です。これは首都圏を中心とした多くの脱原発団体・個人がその期間内において同時に、一斉に、‘東海第二原発うごかすな！’といった声を上げて東海第二原発の再稼働阻止を目指すもの

で、現在まで第 11 回を数え、毎回 60 ～ 80 くらいの脱原発団体・個人による行動が行われています。そしてこの他にもいくつかの東海第二原発の再稼働

阻止を目的とした活動を行っていますが、今後はさらにもっと大きな活動をして、絶対に東海第二原発の再稼働を止める、そういう決意で闘い続けます！

原子力規制委員会は能登半島地震の警告を深刻に受けとめよ！

再稼働阻止全国ネットワーク 木村 雅英

3月6日（水）の「原子力規制委員会毎水曜昼休み抗議行動」のあとで、規制委が入っている六本木ファーストビルの地下トイレを借りた時、手洗いで中年男性に話しかけられた。

男性：あなた、いつも外で発言している人でしょう？
応援しています。

私：ええ、毎週抗議行動をしています。原子力規制庁の方ですか？

男性：ええまあ。規制庁も大変で、下着泥棒で処分されたでしょう。

私：それは知りませんが、今日の会議で原子力規制庁の30代後半の人の離職が多いとか？

男性：そう。若い人が「これでいいのか？」って悩んでいる様です。

私：辛いなら辞めてしまえばいいのにね。

男性：頑張ってください。

私：ありがとうございます。

規制庁の人との予期せぬ短い会話だった。

能登半島地震の自然の警告をまともに受け止めず、地震学者が根本的な警告と受けとめて「新規制基準」の欠陥が明らかなのに改訂しようとせず、屋内退避も避難ももろもろの原子力災害避難計画が全く不可能で画餅であることが明らかになったのに「原子力災害対策指針」を改訂しようとしない原子力規制委員会。

原子力規制庁の担当者も思い悩んで当然だろう。

まずは、若狭で稼働開始したトラブル続きの老朽原発を直ちに止めるべきだ。

原子力規制委員会と原子力規制庁の内情にも注目して再稼働阻止を実現しよう。

メッセージ 3月31日集会の成功を期待します

柏崎刈羽原発絶対反対地元有志 代表 近藤 容人、高田 勝広

原子力規制庁は2023年12月27日「東京電力は柏崎・刈羽原発の運転を的確に遂行するに足りる技術的能力がないとする理由はないと判断した」との結論を決定した。

これを受けて2024年1月22日、原子力規制庁は「追加検査結果に関する」住民説明会を開催。1月30日東京電力による説明会。2月14日には内閣府による「原子力防災の取組と支援体制について」、資源エネルギー庁による「エネルギー政策について」の説明会。3月12日原子力規制委員会初代委員長田中俊一による「複合災害時における避難の在り方」の講演会等再稼働に向けての動きが激しくなっている。

私たちはいずれの説明会でも堂々と氏名を名乗り「福島事故の補償をきちんとしない東電に原発を運転する資格はない」「福島の地域復興は終わっていない」「汚染水を海洋放出することは、福島の地域復興には繋がらない」「東電の耐震設計は一般住宅の耐震設計よりも劣っている」「避難計画はずさんである。」「東電の電気料金が高いのは柏崎・刈羽原発が稼働していないことは政策誘導だ」「能登半島地震では志賀原発で事故を起こしている、避難計画を見直せ」と

意見を述べてきた。

初めて発言する参加者から「私は、再稼働反対の立場で発言する。避難計画は過酷な大規模事故を想定すべきである」等、堂々と反対意見を述べる人が出てきている。

柏崎市長へは緊急に申し入れをし、「商工会議所からの早期再稼働を求める意見書」に対する見解を求めるとともに、私たち再稼働反対の立場を明らかにしてきた。

新潟県知事は「再稼働の際に信を問う」と知事選挙の際述べてきたが、どのような形で信を問うのか明らかにしていない。私達は県民投票を断固実行すべきと考える。

原発から半径5～30キロメートル圏（＝UPZ）内の市町村からは避難経路の整備がされていないことを問題視する声が上がってきている。

地元賛成派は、意見書の中で「再稼働するのは国策で国策に協力するのは当たり前である」「東電関係者に大手を振って市内で消費活動をしてもらいたい。それが地元を潤すことになる」と述べ。田中規制委員会初代委員長は「福島事故で放射線ばくによる健康被

害は確認されていない。まずは屋内退避が重要」とデマの論理を述べている。

私達は「健康や心までは東電、自民党、公明党政府には売っていない」「東電の利益のために、事故がおきる事を心配する不安な生活はごめんだ。原発の再稼働は認めない。我々の人格権を踏みにじるな。原発は廃炉しろ。」こんな気持ちをもって現地のできる行動をして頑張っています。

本日の行動に参加されたみなさんに敬意を表すとともに、行動が成功することを期待いたします。

何よりも被曝労働なしには操業できない原発。どこを探しても原発再稼働の理由は出てこない。中部電力は3月13日、浜岡原発の「基準津波」が最大25.2メートルと発表した。だが、現在の防波壁は22メートルしかない。これを継ぎ足して高くすることはもはや出来ない。福島、能登の志賀、次は浜岡だ。危機的状況は、我々に迫っている。

浜岡からのメッセージ

浜岡原発を考える静岡ネットワーク 代表 鈴木 卓馬

福島原発震災から14年目を迎える3月11日、我々（浜岡原発を考える静岡ネットワーク）も参加している「浜岡原発の再稼働を許さない静岡県ネットワーク（県ネット・県下の55の市民グループが参加）」は、県知事と中部電力に対し要請・申入れを行った。

当日は、能登半島地震での志賀原発が危機的状況に陥った影響もあり、マスコミの関心度も高く、記者会見には数社が参加し、夜のテレビニュースでも報道された。

県知事には、能登半島地震の実態を踏まえ、原発過酷事故における避難計画、県原子力学会の役割、中部電力との安全協定など質問と要請を行った。

中部電力には、能登半島地震を上回る「南海トラフ巨大地震」が想定される中で、その震源域の真上に立地する浜岡原発の再稼働を推進する理由は何かと厳しく追及した。危険な原発、ハイコストな原子力発電、

中部電力は、我々の不安な気持ちからの申入れに一切応えようとしな。ただ聞いて「上に伝えます」というだけの不当な態度だ。中部電力は、モットーに「お客様や社会からの信頼に応えます」と高らかに謳っている。

老朽原発廃炉！美浜全国集会にご参集の皆様、この世に安全な原発など存在しません。

浜岡の現状を報告し、メッセージと致します。連携を強化し共に頑張ろう。

若狭には大地震のリスクが指摘されながら再稼働が強行された美浜、高浜、大飯の原発があります。今回の地震を経験した隣県石川の私たちにとっても、我がこととして再稼働阻止、廃炉に向けた取り組みに連帯していかなければいけないと痛感しています。

3.31「老朽原発ただちに廃炉！美浜全国集会」にご参加の皆様へ

志賀原発を廃炉に！訴訟 原告団長 北野 進

元日の能登半島地震は住民の暮らし、能登の風景を一変させてしまいました。強烈な揺れに加え、津波や土砂崩れが多数の家屋を破壊し、さらに火災も発生する中で、200人以上もの尊い命が奪われました。ライフラインも寸断され、まさに地域壊滅です。

今回の能登半島地震の震央は、かつて関西電力が珠洲で原発立地を進めた高屋（たかや）の裏山です。関西電力が調査を予定していたエリアでは約2メートルの隆起が確認できます。原発ができていたら到底耐えることはできず、重大事故に至っていたことは間違いありません。幸い珠洲原発は福井や関西の皆さんの大きな支援もあり阻止することができました。ただただ感謝しかありません。

しかし能登にはまだ志賀原発があります。幸い13年間停止中で、様々な故障、トラブルがありながらも最悪の事態には至りませんでした。再稼働など絶対に許せません。

能登半島地震を自然界からの最後の、さいごの警告として受け止め、脱原発社会を実現しなければなりません。みなさん、頑張りましょう！

（▲関電の原発予定地、高屋地区の防波堤）



3.31「老朽原発ただちに廃炉！美浜全国集会－地震も事故もまったなし－」への連帯メッセージ

さよなら原発・ぎふ <https://ameblo.jp/611gifu/>

私たち「さよなら原発・ぎふ」は2012年3月、美浜原発近くの水晶浜から、1,000個の風船を飛ばして、風向き調査を行いました。その結果、84%が岐阜県内で発見され、もしも福井の原発で事故が起きれば、岐阜にも甚大な放射能汚染の被害が及ぶことがわかりました。このことは、同年9月に岐阜県が実施した「放射性物質拡散シュミレーション」でも明らかになっています。

岐阜は原発の立地県ではありませんし、報道も少なく、皆さんの関心も低いのですが、いざ事故が起きれば、有効な避難計画もない中で、大混乱のうちに大勢の人が被曝してしまいます。

私たちは、岐阜の皆さんに改めて原発の危険性について考えていただこうと、先月25日、映画「原発を

とめた裁判長　そして原発をとめる農家たち」の上映と樋口英明・元裁判長の講演会を開催しました。

樋口さんが2014年に下した大飯原発運転差止判決は、地震大国の日本で、一般の住宅よりも格段に耐震性の低い原発の運転は許されないと断じた判決です。

そして今月10日には「第50回さよなら原発パレード in ぎふ」を開催し、「首の皮一枚！志賀原発」と題して、能登半島地震における志賀原発の危険性についても訴えました。能登半島地震では、地震大国の日本には、安全な場所などないことが示されました。

これからも岐阜の地から「地震大国ニッポン　原発とめよう！」を訴えていきます。老朽原発廃炉に向けて、そして原発ゼロに向けて、ともに頑張りましょう！

直接対決の証人尋問を傍聴して応援してください！ 関電老朽原発 高浜1、2号機&美浜3号機 延長認可等 取消訴訟

老朽原発40年廃炉訴訟市民の会 柴山 恭子

2016年4月に名古屋地裁に提訴した40年廃炉訴訟ですが、8年を経ていよいよ今年、証人尋問、そして結審へと進みます。

証人尋問は、中性子照射脆化の過小評価問題についてです。裁判の中で、規制委が監視試験片の原データも見ていないなど驚くべき審査が明らかとなりました。原告側は、専門家の協力を得て、新しい知見を踏まえた評価をすると、特に高浜1号機の原子炉容器は脆性破壊の恐れが深刻であることも立証しました。

今回の証人尋問は、双方が申請した証人が法廷で直接対決します！通常の証人尋問は、一人の証人に主尋問、反対尋問を行います。今回は、1つのテーマにつき、双方が申請した証人が法廷に揃っている中で、交互に尋問を行います。つまり、証人は、相手方の証人の証言をそばで聞くことになります。

緊張感あふれる法廷をぜひ傍聴してください！

いずれも名古屋地裁2号法廷です。午前が主尋問、午後が反対尋問、再主尋問・補充尋問。

【高浜1、2号 第31回】

2024年4月26日（金）

10:30～16:30

破壊靱性遷移曲線について

原告：井野博満証人 被告：鈴木雅秀証人

【高浜1、2号 第32回】

2024年5月10日（金）

10:30～16:30

PTS状態遷移曲線とPTS評価について

原告：高島武雄証人 被告：中村秀夫証人



(イラスト：茶畑 和也)

3.31集会メッセージ

関電の「円滑な搬出のため」に地上での乾式貯蔵は必要ない！

ふるさとを守る高浜・おおいの会（高浜町） 東山 幸弘

高浜原発から4キロ、大飯原発から15キロに住んでいます。

正月元旦の能登半島大地震には本当に驚きました。若狭地方で震度4。家の中で立っておられないゆれでした。しかし「原発は止まりません。手動で止めようともしません」でした。

これまで大阪に住んでいた時も、一番気になるのが震度1でもどこが震源だろうか、とテレビをつけ、若狭地方が震源でなかったことに「ほっ」としました。

日本海側には「津波はない」ことになっていました。一生で初めての津波避難を経験された人も多かったでしょう。今度の体験で原発は「本当に止まるのだろうか」「止めてもらえるのだろうか」と近くに住むものの原発は恐怖でしかありません。

若狭の原発はもう数年で使用済み燃料がプールに満

杯になるため、搬出先が決まり次第「すぐに」搬出できるようプールから地上保管をするための申請をしたと、関電は福井県知事へ了承を求めた。杉本知事はじめ県議会も県の専門部会もプールより地上の乾式貯蔵が「安全」との大合唱です。これまでもフランスや六ヶ所村への搬出はプールから一時も地上で保管することなく、「速やかに円滑に」行ってきた。これからも搬出先が決まれば「円滑に搬出」できるはずである。地上保管する必要はまったくない。

先月示された地上での保管キャスクはコンクリートパネルで囲っただけのもので、有り体に言えば「野ざらし」である。自然冷却とは言え、建物の中に入れ、排気口に放射能漏れを管理することさえ放棄している。住民の安全にはゼニをケチる体質丸出しではないか。

原発立地・おおい町から

おおい町 宮崎 慈空

福島原発震災から13年が経ちました。いまだに福島県の県内外避難者数は26,000人にのぼっています。双葉町では震災後初めて郵便局が1ヶ所再開したという一この報に接したのはつい数日前のこと。放射能汚染のため復興が遅々として進んでいないのです。これ程の事態は国家の非常事態と呼んでもいいくらいなのに、事故原因の究明もなく、国も事業者も責任は不問のまま、原発再稼働に邁進しています。そこには国益や国民の安寧を損してでも原子力利権共同体を肥やそうとする偏狭頑迷な人達の存在があります。

その人達の一角を担うのが関西電力です。石川県で珠洲原発建設を画策したものの、強い反対運動で阻止されました。もし建設されていれば今回の能登地震の震源域そのものであった訳ですから、あの福一事故の数倍の汚染が北陸・中部一円を襲っていたかもしれま

せん。

「日本では大地震はいつでもどこでも起こり得るし、いつどこで起こるかは予知できない」（島崎邦彦氏）
—これが最も科学的な知見です。全国の原発は即廃炉にすべきです。

若狭の3原発で、サイト内乾式貯蔵の問題が持ち上がっています。あと数年で各原発のプールが満杯になることを見越して、プールを空けるのだと誰もが知っていますが、立地地元は既に交付金中毒で思考停止気味。自立で経済を興そうとする気概はみられません。

原子力優先の政策は、再エネの伸長を阻害し、大きく国益を損しています。大事故によって棄民されるのを待つわけにはいきません。全原発の即時廃炉を目指して頑張りましょう。

能登半島地震と乾式貯蔵と美浜3号仮処分決定を体験して

若狭町 石地 優

今年の元日早々、能登半島地震が起き大自然の脅威をまざまざと見せつけられ、珠洲に原発が出来ていなくて、能登原発が止まっていて本当に良かったです。

美浜原発は、能登半島と同じ逆断層型の活断層があ

り、東1km、西3km、直下4kmの極近傍に囲まれています。もしそれらの断層が動き隆起したらどうなるでしょう。東京新聞(3/14)によれば、関西電力の想定する美浜原発の隆起は1m未満だそうです。(関電

は)隆起しても取水に問題はないと主張し、規制委は妥当と判断しています。

3月15日、大阪高裁(長谷川浩二裁判長)は、美浜原発3号運転差し止め仮処分の即時抗告審において、関電の主張をなぞり、本件抗告を棄却しました。

同、3月15日、福井県杉本知事は、関電から出されていた「使用済燃料の原発敷地内で保管する乾式貯蔵の事前了解願」について申請することを了承しました。説明会も開かず、県議会、立地町の意見だけを聞

いて了承しました。

政府の「原発を最大限活用する」という原子力政策の大転換が、福島事故や能登半島地震など何するものぞとの雰囲気醸し出しています。立地自治体や司法をも毒する事態を変えねば、今、一番多くの原発が動き、一番古い原発が動く若狭が大惨事に見舞われかねません。まずは、老朽原発の美浜原発3号機、高浜1・2号機を止めたいです。

3.31「老朽原発ただちに廃炉！ 美浜全国集会－地震も事故もまったなし－」へのメッセージ

原発ゼロ宮津・与謝ネット(京都府)

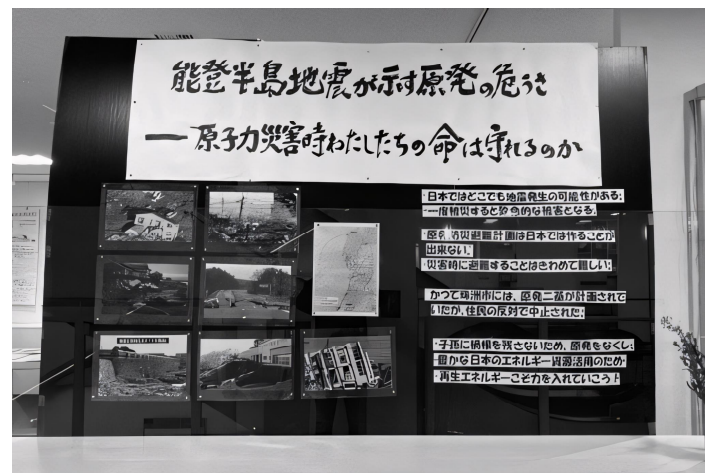
日頃のご奮闘に敬意を表します。

私たち「原発ゼロ宮津・与謝ネット」は京都府北部において、原発反対の取り組みを展開しており、毎年3月には、「3.11企画展」を開催し、写真・パネル展示、講演会を開催しており、今回の能登地震もテーマの一つとなりました。

この地震は、あらゆる面でこれまでの経験、想定を超えるものでした。広範囲の活断層の連動、数メートルに及ぶ地盤隆起が起きました。志賀原発では、多数のトラブルがあったにもかかわらず、早々と「異常なし」と報告、その後訂正が相次ぐなど信頼性はまったくありません。

そのうえ、多くの箇所での道路の寸断、公共施設の損壊、家屋の倒壊などで避難も屋内退避もできなかったことにより、避難計画がまさに「机上の空論」であることが白日の下にさらされました。しかし、原子力規制委員長は原子力災害対策指針の見直しを「考えていない」と発言、無責任ぶりは極まっています。

直近の世論調査では、再稼働反対が45%で賛成の36%を上回って逆転しています(毎日新聞)。さらに運動を進め、世論を動かし、裁判所にも認識させる必要があります。すべての原発の廃炉をめざしてともに頑張りましょう！



3.31「老朽原発ただちに廃炉！ 美浜全国集会－地震も事故もまったなし－」へのメッセージ

福知山地方労働組合協議会 議長 奥井 正美

3.31「老朽原発ただちに廃炉！美浜全国集会－地震も事故もまったなし」の集会参加の皆さまご苦労様です。

2012年7月より毎週キンカン行動を行っています。京都府福知山市キンカン行動一同より連帯のメッセージ送ります。

2024年元旦に起こった能登半島地震現状から私たちも学ばないといけないと思ひまして、福知山市民総務部危機管理室と懇談を持ちました。能登半島地震では志賀原発からの避難ルートは寸断、家屋被害で屋内退避も出来ない状況が目当たりになりました。そこ

で、福知山市民に対して原発事故が起こった場合、現状の避難させる考え方で本当にいいのか？ 福知山市は高浜・大飯町民の一次受け入れ地域になっているが一次受け入れが出来るのか？ など能登半島地震からの教訓を真摯に受け止めて、国・京都府に対しての要望及び福知山市としての避難ルートの再考などを要望・提案の懇談をしてきました。

岸田自公政権は、問答無用で原発を推進するなどもつてのほかです。原発は即時中止・廃炉を求めます。

原発でなく省エネと再エネ優先へと転換させましょう。原発に固執する岸田政権を退陣に追い込み自民党

政治を終わらせ、原発ゼロの日本を実現していきましょう。

集会参加の皆さんと共に手を携えて原発ゼロ、再生

可能エネルギーで安全・安心の日本を確立していきましょう。共に頑張りましょう。

メッセージ

さよなら島根原発ネットワーク 芦原 康江

1月1日に能登半島を襲った150kmにも亘る断層が連動した地震に、私達は改めて「この国は地震大国」であることを突きつけられた思いでいます。そして、なぜ、こんな国に原発を作ってしまったのかと、ふつふつと怒りの感情が沸き上がってきます。

複数の断層がおおよそ150kmに亘って連動したといわれる能登半島地震を、北陸電力は正しく評価することができていませんでしたが、中国電力も同じ過ちを行っています。中国電力は、島根原発直近の「宍道断層」と鳥取沖の東部・西部断層の連動を否定し、西側海域に連なる断層群との連動も否定しています。その根拠は、「断層間の離隔距離が5km以上」「断層の走行が一直線上にない」などですが、能登半島地震を見れば、根拠にもならないものだということがわかりま

す。

能登半島地震において、多くの家屋が倒壊し、道路は液状化や亀裂、土砂崩れなどで寸断されてしまいました。志賀原発の30km圏内で最大8地区約400人が8日間孤立状態になった事態は、原発事故が重なれば住民の避難は困難となることを強く示唆しました。能登半島と同様に断層群の只中にある島根原発の周りも、やはり同じ環境なのです。このまま再稼働させれば、多くの住民が重大な被ばくを強いられてしまいます。

私たちは、能登半島地震を受け、声を大にして訴えたいと思います。

いのちと暮らしを守るため、皆様と共に全ての原発を廃炉にしましょう！

3.31「老朽原発ただちに廃炉！ 美浜全国集会」へのメッセージ

上関の自然を守る会 共同代表 高島 美登里

今回の能登半島地震により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。地震の報に接し、まず心をよぎったのは老朽原発のことでした。地震大国日本には原発の適地など何処にもないこと、ましてや老朽原発の再稼働などありえないことを象徴する出来事でした。政府自民党や関西電力は事故の影響を過少評価し、運転継続や再稼働に躍起になっています。皆さまが闘っておられる3件の仮処分裁判は極めて重要な意味を持つと思います。

さて上関では昨年8月に町長が中間貯蔵施設建設のための調査受け入れを表明して半年あまり経ちました。町長や電力会社の目論見にも関わらず、マスコミの世論調査では住民の59%、周辺自治体でも議会や首長も含め疑義や反対の声が高まっています。中間ではなく最終処分場になることへの不安、関電のゴミを

受け入れることへの抵抗感、移住定住対策への影響などが大きな理由です。中電宛て、関電宛ての中間貯蔵施設に反対する署名は27万筆を超えました。こうした世論に対し、町長は財政難を錦の御旗に誘致を強行しようと躍起になっています。

私たちは危険極まりない核に依存する町政ではなく「奇跡の海」の自然を活かした町作りのために様々な活動を展開しています。基幹産業である漁業振興やエコツアーなどに町内外から参加者が増えています。こうした活動を通じて町民自らがふるさとのかけがえない価値を再認識し「原発NO！中間貯蔵施設NO！」という選択ができるように頑張ります。すべての原発を廃炉に追い込み、原発のない未来を実現させましょう！！

メッセージ

上関原発を建てさせない山口県民連絡会

3.31「老朽原発ただちに廃炉！ 美浜全国集会—地震も事故もまったなし—」集会にお集まりの皆様へ連帯メッセージを送ります。

上関原発を建てさせない山口大集会は2014年より開始しました。途中、コロナ禍で大集会ではなく各地での集会になりましたが、昨年よりまた一箇所に集ま

つての大集会を行っています。いつも連帯メッセージをお送り下さり、ありがとうございます。

2011 年直後は山口県内でも原発反対の声が多くありましたが、年月が流れるにつれ原発に対する関心が薄まっていきました。そういう状況の中、昨年、中国電力が関西電力の核廃棄物を保管する中間貯蔵施設建設を言いはじめました。連日の抗議行動や署名活動など県民連絡会としても行いました。新たな原発を建てず、老朽原発を再稼働させなければ、いずれ日本から原発はなくなります。上関の中間貯蔵施設建設を阻止

できれば、関電の原発再稼働阻止にも繋がります。

上関は自然豊かな場所です。関電が原発を建設している北陸も自然豊かな場所でしょう。

未来の人たちに原発ではなく、豊かな自然を残しましょう！

未来の人たちに危険な核廃棄物を押しつけないためにも原発をなくしましょう！

核と人類は共存できません。

共に闘いましょう！！

3.31老朽原発ただちに廃炉！美浜全国集会に連帯します。

伊方から原発をなくす会 名出 真一

3 月 7 日に大分地裁で住民運動としては原告数が 549 人に及び、県内最大の訴訟となった「伊方原発運転差し止め訴訟」の判決が出ました。大分地裁は「専門的な知見を持つ電力事業者が原発の安全性を立証する必要がある」との判断を示していました。その上で四国電力側の主張を全面的に認めて、災害対策に裁判所がお墨付きを与えました。しかし、福島原発事故で、明らかになったように、事故が起きて命が奪われようと、故郷を奪われようと誰も責任はとりません。政治、行政、司法、電力事業者、学者誰一人責任はとっていません。1973 年から伊方現地住民が起こした日本初の原発訴訟で争われた内容が、まさに福島原発事故で起こってしまいました。もし司法が、四国電力が、

行政、政府がそして我々電力消費地が、住民の声に耳を貸していれば、福島原発事故はなかったかもしれない。この責任はあまりにも大きい。

福島原発事故から 13 年たった今も、故郷に帰れない人たちがいます。溶け落ちた燃料デブリはまだ 1 グラムも取り出せていません。この事実を電力資本や岸田政権はなかったことにしようとしています。今年初めに能登半島地震があり、志賀原発が動いていなくてよかった。珠洲原発建設を住民が阻止してくれてよかったと痛感したばかりにも関わらず、政府や電力資本、司法そして私たち電力消費者は同じ過ちを繰り返そうとしています。そんなことは絶対に許されない。全国の仲間の力で阻止しましょう。

鹿児島からのメッセージ

ストップ川内原発！3.11鹿児島実行委員会 共同代表 向原 祥隆

3 月 31 日、美浜全国集会に参加された皆様、鹿児島からご挨拶申し上げます。川内原発 1、2 号は、まもなく設計寿命の 40 年を迎えます。若狭湾の原発同様、川内も紛れもない老朽原発です。にもかかわらず、九州電力と塩田康一県知事はさらに 20 年の延長を目指しています。鹿児島の反原発は昨年、県民投票条例直接請求署名を実施しました。地方自治法 74 条に基づくこの署名運動は空前の広がりを見せ、法定数の 2 万 7000 筆を大幅に上回る 4 万 6112 筆を達成しました。県議会で否決されましたが、これが鹿児島県民の意思です。

震度 7 を記録した能登半島地震では、志賀原発が運

転中であつたら、そして 2003 年、白紙になった珠洲原発が稼働していたなら、国の存亡を左右する大惨事となったでしょう。200 カ所以上のがけ崩れ、無数の倒壊家屋によって道路は寸断され、川内原発の避難計画が絵に描いた餅に過ぎないことも白日の下にさらされました。

現在、鹿児島県下全市町村議会に、20 年延長反対を決議するよう陳情書を提出しています。川内廃炉まで、あらゆる闘いを続けます。

共に闘いましょう。

日本中、世界中から原発をなくしましょう。

『原発を考える～やさしいトピック22』

福島第一原発事故から13年がたち、政府や財界はすっかり原発推進に舵を切っています。裁判所もそれを後押ししているかのようです。悲惨な事故の記憶が風化してきて、貴重な教訓がないがしろにされています。

放射能はそんなに危険ではない、福島第一原発事故で健康被害はなかった、電気が足りないから原発が必要、原発は二酸化炭素を出さないから環境に良い、

などという噂も聞こえてきますが、本当でしょうか？

こうした状況に対し「原発とは何かを考える」ためのパンフをつくりました。さて、原発をめぐる噂は実際どうなのか、確かめてみましょう。「**原発の今 入門書**」です。まわりの方にも紹介ください。

コンパクトサイズのA5判（この紙の半分）
カラー版、全48ページ！
22のトピックをやさしく解説！
見開き完結で、
左ページは解説、右ページは図解など！

2011年3月11日、何がおこったか？
人々の生活はどうなったか？

今日のはあのとときの3月10日かもしれない。
明日、巨大地震と大津波に襲われ
原発が過酷事故をおこすなんて
夢にも思わず
何気なく暮らしている日常が
明日も続くと信じて疑わず
平穩に暮らしていた。
3月10日までは！

- ◆このパンフのPDF版：下記サイト（下線で検索可）から無料でダウンロードできます。
【[京都脱原発原告団](#)】市民運動の紹介 >
老朽原発うごかすな！実行委員会より >】
- ◆紙版（冊子とじ）：1冊200円前後の任意カンパをお願いします。送料実費…1冊なら定形外140円、2～6冊ならスマートレター180円で発送できます。部数が多い場合は、ご連絡ください。
- ◆連絡先：老朽原発うごかすな！実行委員会
meisei@pp.iij4u.or.jp FAX:075-571-8871
（編集担当：吉田めいせい）

2024年3月10日発行

【もくじ】

(1) 2011年3月11日、何がおこったか？	04
(2) 福島第一原発はなぜ過酷事故をおこしたのか？	06
(3) 福島第一原発事故で東日本壊滅をまぬがれた訳は？	08
(4) 福島第一原発事故の後始末はどこまで進展しているか？	10
(5) 2023年から海に放出されているアルプス処理水はなぜ汚染水？	12
(6) 福島第一原発事故による健康被害はないのか？	14
(7) 国際組織のIAEA、ICRP、UNSCEARの本当の姿は？	16
(8) 福島第一原発事故で避難した16万人余は今？	18
(9) 除染廃棄物はどのように処理されているのか？	20
(10) 原発とは、そもそも何が問題か？	22
(11) 40年超え老朽原発は、どこが問題か？	24
(12) 使用済み核燃料の再処理（核燃料サイクル）に未来はある？	26
(13) 中間貯蔵施設と乾式貯蔵の本当の役割は？	28
(14) 核のゴミ、最終処分場はどうする？	30
(15) 原発で温暖化（気候危機）を解決できるか？	32
(16) 危険な原発を裁判で止めることはできないのか？	34
(17) 原発がないと電気が不足する？	36
(18) 原発の電気を使わない暮らしをするには？	38
(19) 原発が再エネ拡大を妨害？	40
(20) 電気料金の内訳は、どうなっているか？	42
(21) 有り余る電気を湯水のように使う社会で良いのか？	44
(22) 原発を動かしてはならない10の理由とは？	46

原発を考える やさしいトピック22

2011年3月11日、何がおこったか？
人々の生活はどうなったか？

2011年3月11日14:46、東京電力福島第一原子力発電所は
巨大地震に襲われ、15:27頃から大津波が襲来した。



▲福島第一原発1号機の水素爆発（出典：2011年3月12日福島中央テレビ）
▼福島第一原発3号機の水素爆発（出典：2011年3月14日福島中央テレビ）



切り取り

『原発を考える～やさしいトピック22』 冊子とじ [] 冊

注
文
票

氏名

郵送の場合は住所

同上、Mail or Tel

Mail
FAX
注文可

2024

6/9
(日)

とめよう！ 原発依存社会への

暴走 大集会

～地震も事故も まったなし～

(写真は最大震度7を観測した地震で
ひび割れた「のと里山街道」
日本赤十字社HPより)

不可能！
避難・屋内退避

行き場のない
使用済み核燃料！

原発やめろ、
被ばくを
させるな！



6月9日(日)午後
大阪市内で
集会・デモ

予定してください
おねがいします



主催:老朽原発うごかすな！実行委員会
連絡先:090-1965-7102

